

## 巻頭言

### 特集「プログラムマネジメント教育の現状と展開」にあたって

東京工業大学／立教大学 吉川厚

P2M の重要さが認識されつつも広がっていない現状が続いている。このような中、拙稿<sup>1)</sup>を重要な課題として認識していただき、わずか一ヶ月程度で特集を組んでいただいた編集委員の皆様にもまず感謝の意を示したい。

研究分野において、P2M の教育・訓練がどのように扱われているのかを簡単にみるために文献データベース Microsoft Academic を使用

して調べてみた。キーワード Project, Program, Management, Training, Education で検索し、そのときのタイトルとアブストラクトから共起関係にあるキーワードを可視化したのが図 1 である。丸が大きいほど多く出現していることを示し、線が他のキーワードとの共起関係を示している。さらに色分けがクラスタリングを示している。

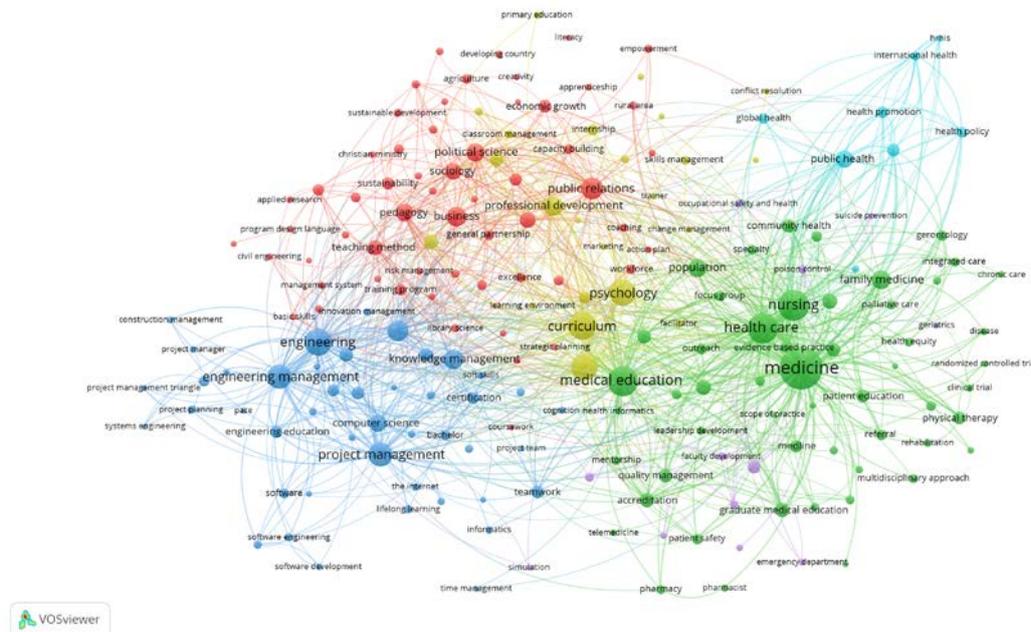


図 1 Microsoft Academic での検索結果を VOSViewer を掛けて可視化した図

これをみると、medicine, health care, nursing, medical education という医薬関係のドメインが 1 つの領域(緑色)になっていて、研究数も多いことを示している。もう 1 つが、engineering, project management, knowledge management, engineering management, higher education,

computer science という工学系ドメインになっている(青色)。また、第三領域として、public relations, business, political science, sociology, pedagogy などの社会科学的ドメイン(赤色)である。そして、psychology, curriculum, competence がコアとなって、社会科学との接

